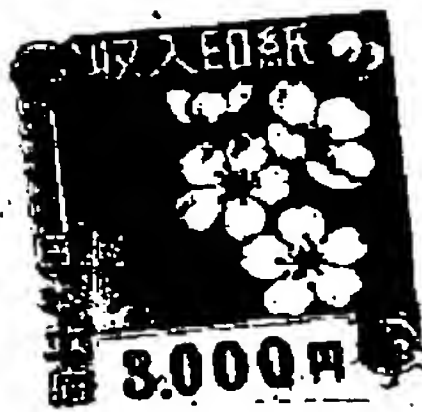


BEST AVAILABLE COPY



(3,000円)

実用新案登録願

昭和57年5月25日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称 カイテンイン
回転印

2. 考案者

住所 出願人と同じ
氏名

3. 実用新案登録出願人

住所 ^{ニシキタカシウ}名古屋市西区北郷町2丁目ノ番地
氏名 ^{フナハシタカシ}舟橋高次

4. 代理人

住所 名古屋市瑞穂区弥富町月見ヶ丘2番地
氏名 岡田ビル503号 電話 (052) 831-0901
(7547) 弁護士 平佐見 思男

5. 添付書類の目録

| | |
|-------------|-----|
| (1) 明細書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) 委任状 | 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1 通 |

特許

5 5.26

願

51 066696

方式
審査

52-158611

明 細 書

1. 考案の名称

回 転 印

2 実用新案登録請求の範囲

支持棒(1)と、支持棒上下に差渡された一对の支持棒(5)、(6)と、上部支持棒(5)と下部支持棒(6)との間に摺動回転可能に懸架され表面に印字部を形成したエンドレスの印帯(11)とからなる回転印本体Aと、該回転印本体A下部に着脱自在に組合わされ、回転印本体の印帯の印字を外出させるべき窓孔(14)を設け、かつ下面に印字体(14)を装着した着脱印部Bとからなり、しかして下部支持棒(6)の印帯が当接して摺動する下面を他の部分より隆起せしめて、かつ印帯当接部(6)a両端の両側面または一側面から印帯(11)が印帯当接部(6)aから滑落しないように係止片(6)^{(16)c}を突出させたことを特徴とする回転印。

3 考案の詳細な説明

本考案は、回転印本体に着脱印部を取替え自在に組合わせた回転印に関するものである。

(1)

52-158611

この種の印判は、回転印本体の印字の印字面と着脱印部の印字の印字面とが同一面上に位置するようにして両者の印影が濃淡なく均一に捺印される必要がある。そのため、従来においては例えば第1図に示すように回転印本体A'に懸架されている印帯(111)上の印字体(112)の厚みを着脱印部B'に収納せられている印字体(127)の厚みより厚いものにして印字体(112)の印字面(126)と印字体(127)の印字面(126)とを同一面上に位置せしめる方法が多くとられていた。しかし、上記方法にあっては厚みのある印字を有する印帯を特別に製造しなければならず、製造された印帯は印字が特別に厚いから汎用性がなく、他種の印判に流用されにくいこと、印字に厚みを持たせると印字にクラックが生じたり、欠落したりし易くなること等の欠点を有する。

本考案は叙上の欠点を改良し、回転印本体の印影と、着脱印部の印影とを濃淡なく均一にし、しかも回転印本体の印帯上の印字を厚くする必要のないような新規な構成を有する回転印を提供する

ことを目的とするものである。

本考案を第2図以下に示す実施例により説明する。回転印本体 A において(1)は「状の支持棒であり、上辺には握り(2)が座金(3)を介してボルト(4)によって取付けられる。支持棒(1)の側壁(1')、(1')間には、一対の支持棒(5)、(6)が差渡される。上方の支持棒(5)には側面に回転体(7)が一体に固着している案内輪(8)が複数個回転自在に嵌合せられる。また、下方の支持棒(6)はその下面の印帯が当接して揺動する部分の全体が第7図・第8図に示すように折り曲げ部(9)、(10)よりも隆起していて印帯当接部(6)aとなっている。そして、この印帯当接部(6)aの両端両側面から一対の係止片(6)b、(6)b、(6)c、(6)cが突出せしめられている。更に、支持棒(6)の両端には折り曲げ部(9)、(10)が延設折り曲げられ、支持棒(1)の両側壁(1')、(1')の下端に嵌合せられる。支持棒(6)はかくして支持棒(6)本体と折り曲げ部(9)、(10)とで支持棒(1)の両側壁(1')、(1')の下端を挟持することにより支持棒(1)に取付けられる。

(11)は表面に印字(12)を形成したエンドレスの印帯

であり、回転体(7)と支持棒(6)の印帯当接部(6) a との間に摺動回転可能に懸架される。支持棒(1)の両側壁(1)、(1)の下部には後記する着脱印字部 B を取付けるため上下一対の嵌入孔(13)、(14)および(13)、(14)が夫々設けられ、一对の嵌入孔(13)、(14)および(13)、(14)を連絡する連絡溝(15)、(15)が設けられる。なお、前記の嵌入孔は(13)、(14)または(13)、(14)のいずれか片方のみであってもよい。(16)はエンドレス印帯(11)をカバーするカバー板で、案内輪(8)が臨出するための臨出窓(17)が設けられる。なお、印帯(11)は無数の微細な連続気孔を有する材料でつくってもよい。

次に、第³図(11)、第⁴図(12)に示す着脱印字部 B において⁵字排⁴字排入
て(18)は底なしの箱体であり、中央部には印字臨出用の窓孔(19)があり、窓孔(19)の長手方向両端からは手掛部(60)を上縁に設けたプラスチック製のカバー(60)を被層した枠体(20)が台部(21)、(21)上に夫々立設せられ、枠体(20)の内側面には中央部に凹陥部(22)を形成し凹陥部(22)両側に翼(23)、(23)を延設し、かつこの翼(23)、(23)の表面には支持棒(1)に設けられた^{嵌入孔}嵌入部(13)、(14)および(13)、(14)に嵌入する凸部(24)が²字排³字排入

夫々形成せられている板バネ部が図層されている。
なお、カバー (60) は用いられるインキの色と同一に着色してこれをもってインキの色の表示とすると使用に極めて便利である。

更に、この板バネ部の下端には、位置決め用の腕部が一体的に形成されている

以上の状態を図示すると、第³~~2~~^②図~~(時)~~の如くであるが、特に板バネ部の部分を第⁴~~3~~^④図~~(時)~~ (第³~~2~~^②図~~(時)~~のA-A拡大断面図) を用いて更に詳しく説明する。
3回挿入
7回挿入

図示されている板バネ部は、一枚の弾性のある材料よりできている。この材料は、金属または合成樹脂のうちから適度の弾性と強度とをもつものを選んで用いる。具体的にいえば、金属ではリン青銅、ステンレス等であり、合成樹脂ではポリプロピレン、ポリアセタール等である。

前述したように、板バネ部は凹陥部 (22) とこの凹陥部 (22) の左右の端部に形成された翼部、部とよりなっているものであるが、更にこの凹陥部 (22) の下端には、逆T字形の位置決め用の腕部が

一体的に形成されている。

そして、この位置決め用の腕部4の左右の両端部4a, 4bは、その上方に位置する翼部4c, 4dの左右の両端よりも外方にまで伸びており、枠体4eの両側壁4e', 4e''の内壁面に接触した状態となっている。

従って、二つの翼部4c, 4dは枠体4eの背部4e'''との間には凹陥部(22)によって一定の間隙(52), (52)が形成され、両側壁4e', 4e''との間には位置決め用の腕部4によって一定の間隙(53), (53)が形成されることになる。

なお、詳述はしないが位置決め用の腕部4が逆T字形であることにより、当然上記二つの翼部4c, 4dと位置決め用の腕部4との間にも間隙(54), (54)が形成される。

そして、この板バネ4はこの状態で凹陥部(22)の部分を枠体4eの背部4e'''に接合または溶接等により固着されている。だから、翼部4c, 4dは凹陥部(22)を除く他からは全く自由な状態にあり、その弾性をさまたげるものは何もない。

次に、この板バネ4を製造する場合について説

明する。まず、一枚の平坦な板から凹陥部 (22) にあたる部分と、翼部、部と位置決め用の腕部とを同時に打ち抜く。

つづいて、凹陥部 (22) にあたる部分をプレスにより凹陥状に形成する。すると、翼部、部は凹陥部 (22) から立上った状態となり、その立上った分だけ内側に引込まれ、外寸法はプレスされなかった位置決め用の腕部よりも短いものとなる。

このようにして形成された板バネ部を枠体部に固着する時には、位置決め用の腕部を枠体部の両側壁部にそわせて凹陥部部を枠体部の背部部" に密着させて位置させた後、凹陥部部の部分を背部部" に接合または熔着しさえすればそれでよい。そうすれば、板バネ部は上述した状態で枠体部に固着される。

位置決め用の腕部のはたらしめにより、組立者は組立て上の煩しさを回避でき、極めて高能率に作業ができることになる。

次に、箱体部を説明する。この箱体部には印字部を有する印字体部が収納される。印字体部はイ

ンキを吸蔵するための無数の微細な気孔を有した
ものとし、その上にインキ吸蔵体を添接しても
よい。

以上のような構成からなる本回転印にて捺印す
る場合について説明する。

まず、回転印本体 A の案内輪 (8) を手で回して印
帯 (11) を回転移動させ、所望の印字 (12) を下部捺印位
置に整列させる。この際、印帯 (11) は下部支持棒 (6)
^{隆起している}の印帯当接部 (6) a の下面を摺動するが、第 6 図に ^{印字 A}
示すように印帯当接部 (6) a 両端両側面から突出せ
られる係止片 (6) b、(6) b、(6) c、(6) c によって印
帯 (11) が印帯当接部 (6) a から折り曲げ部 (9)、(10) の方
へ滑落することが防止せられる。次に、所望の着
脱印部 B を選択して回転印本体 A に取付ける。こ
うすることにより、上記印帯 (11) の印字 (12) が着脱印
部 B の窓孔 (13) から露出するようになる。両者を取
付ける際、着脱印部 B の板バネ (14) に形成せられて
いる凹陥部 (15) に回転印本体 A の支持棒 (1) 両側壁 (17)
、(17) の下端外壁面に外出している支持棒 (6) の折り
曲げ部 (9)、(10) を嵌込んで着脱印部 B をスライドさ

せ、支持棒(1)の両側壁(1Y、(1Yに設けられた下方の

^{嵌入孔}
~~図部~~ (14)、(14に着脱印部Bの板バネ(14)の裏面、(14に^{2字棒}
^{3字棒}
形成せられている凸部(14)。 (14)をまず嵌入させる。
次に、着脱印部Bに更に力を加えて、下方の^{嵌入孔}
~~図部~~ (14)、(14に嵌入していた凸部(14)、(14を上方の^{嵌入孔}
~~図部~~ (13)^{2字棒}
^{3字棒}
、(13に摺動させて嵌入させる。

この状態を図示すると、第⁵~~3~~⁶~~4~~図^{と第6図}のようである。^{2字棒}
^{3字棒}
そこに明示されているように、回転印本体Aの印~~字~~
字面と着脱印部Bの印字面とは同一面上にある。

しかし、望ましくは着脱印部Bの印字(14)の印字面より回転印本体Aの印帯(14)の印字(14)の印字面の方が若干(略0.3mm程度)突出するように下部支持棒(6)の印帯当接部(6)aの突出高を調節しておくことが望ましい。

上記のように印帯(14)上の印字(14)を印字体(14)の印字(14)より若干突出させておくと印字(14)による印影の濃さがより均一なものとなる。更に、例えば何らかの原因で印字(14)の印字面が印字(14)の印字面よりも若干陥入してしまった場合でも、印字(14)による印影が極端に薄くなったり、又は殆ど印字(14)に

よる捺印が不可能となる事態を未然に防止する効果がある。

使用者は、第3図に示す状態にある本回転印の握り(2)を手にとって捺印を行えば、着脱印部Bの印字部と回転印本体Aの印字部とが同時に捺印される。回転印本体Aの印字部を変更したい時は、着脱印部Bを手で引下げて翼部、部に形成せられている凸部24。24を支持枠(1)両側壁に設けられた上方の^{嵌孔}凹部13。13から下方の^{嵌孔}凹部14。14に摺動係入させる。かくして、着脱印部Bの印字部の位置よりも印帯(1)の印字部の位置を窓孔14の奥に引っ込めた状態として窓孔14の周縁に回転移動する印帯(1)の印字部が接触しないようにしてから案内輪(8)を手で回して所望の印字部を捺印位置に整列させる。再び着脱印部Bを押し上げて上方の凹部13。13に凸部24。24を嵌入して着脱印部Bを固定し同様に捺印を行う。

翼部、部は、弾力性のある材料よりできており、しかもこの弾力性は枠体4に固着されている凹陥部4以外のものからは全く影響を受けないもの

であるから、着脱印部 B の摺動は極めて容易である。

また、上下一対の^{嵌入孔}凹部 13、14 および 13、14 を連絡する連絡溝 15、15 は着脱印部 B の上下動を円滑にする。また、支持棒 (6) の折り曲げ部 (9)、10 が板バネ 11 に形成せられている凹陷部 12 に嵌入しつつスライドすることにより着脱印部 B の上下動が垂直に案内される。

本考案は、叙上の実施例により限定されるものではない。例えば、着脱印部 B を回転印本体 A に取付けるには、本実施例による機構の他、実願昭 49-34557、実願昭 49-34558、実願昭 49-34559 に記載の機構を適用してもよい。また、下部支持棒 (6) の印帯当接部 (6) a の両端側面から突出せられる係止片 (6) b、(6) c は、印帯当接部 (6) a の一方の側面からのみ突出せられてもよい。

なお、本回転印は着脱印部 B を取付けたまま設置台 C 上に設置せられる。第 9 図および第 10 図に²訂正において 13 は、テーパー状の周壁 13 a が周設され上

部が開口した箱体であり、箱体¹⁰の内部にはポリビニルホルマール樹脂等からなる硬質の多孔質体¹¹にインキを含浸せしめて収納する。該多孔質体¹¹の上面は、箱体¹⁰の周壁¹²と内側から差出された複数個の係止爪¹³により押圧係止せられる。かかる設置台¹⁴の上に本回転印の印字面を下にして第10図のように設置すれば、印字面は多孔質体¹¹と¹⁵接触してインキの揮散が防止され、印字面が乾くことがない。また、机やその他の面にインキが附着して汚染されることも防止できる。更に、設置台¹⁴にキャップ¹⁶を被着して本回転印を被覆し、本回転印および設置台¹⁴内部にゴミ等が附着することを防止してもよい。

本考案は、支持棒と支持棒上下に差渡された一対の支持棒と、上部支持棒と下部支持棒との間に摺動可能に懸架され、表面に印字を形成したエンドレスの印帯とからなる回転印本体において、下部支持棒の下面に印帯当接部を隆起せしめて形成することにより、印帯上の印字¹⁷の印字面と着脱印部¹⁸の印字¹⁹の印字面とを同一面としたもので

ある。従って、印帯上の印字⁽¹⁾の厚みを特別に厚くするなどの方法をとる必要がなく、使用される印帯⁽¹⁾は即存のものをそのまま流用することができて経済的である。⁽¹⁾印帯上の印字⁽¹⁾にクラックが⁽²⁾生じたり、欠落したりする従来の欠点も防止される。⁽³⁾更に、印帯当接部に係止片を形成し、印帯⁽²⁾特に両端に位置する二つの印帯)がこの印帯当接部上を摺動する際、滑落するのを防ぐから、使用者は安心して印帯を回動させて希望する印字を選択することができて能率的に捺印事務を行うことができる。

4 図面の簡単な説明

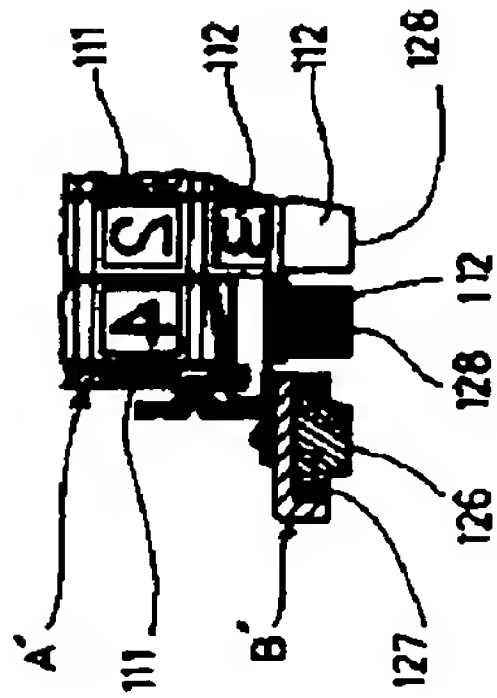
第1図は従来の印判の要部の一部切欠正面図、第2図以降は本考案に係る一実施例を示すものであり、第2図⁽¹⁾は回転印本体の斜視図、⁽²⁾は着脱印部⁽³⁾の一部切欠斜視図、⁽⁴⁾は⁽³⁾におけるA-A拡大断面図、第3図⁽⁵⁾は回転印本体と着脱印部とを組合せた状態の一部切欠正面図、第4図⁽⁶⁾は本願の印判の要部の一部切欠拡大正面図、第5図⁽⁷⁾は下部支持棒⁽⁸⁾の正面図、第6図⁽⁸⁾は印帯を懸架した状態を

説明するための下部支持棒部の側面図、第⁹図は印字
設置台の平面図、第¹⁰図は回転印を設置しキャップ
をかぶせた状態での一部切欠正面図である。

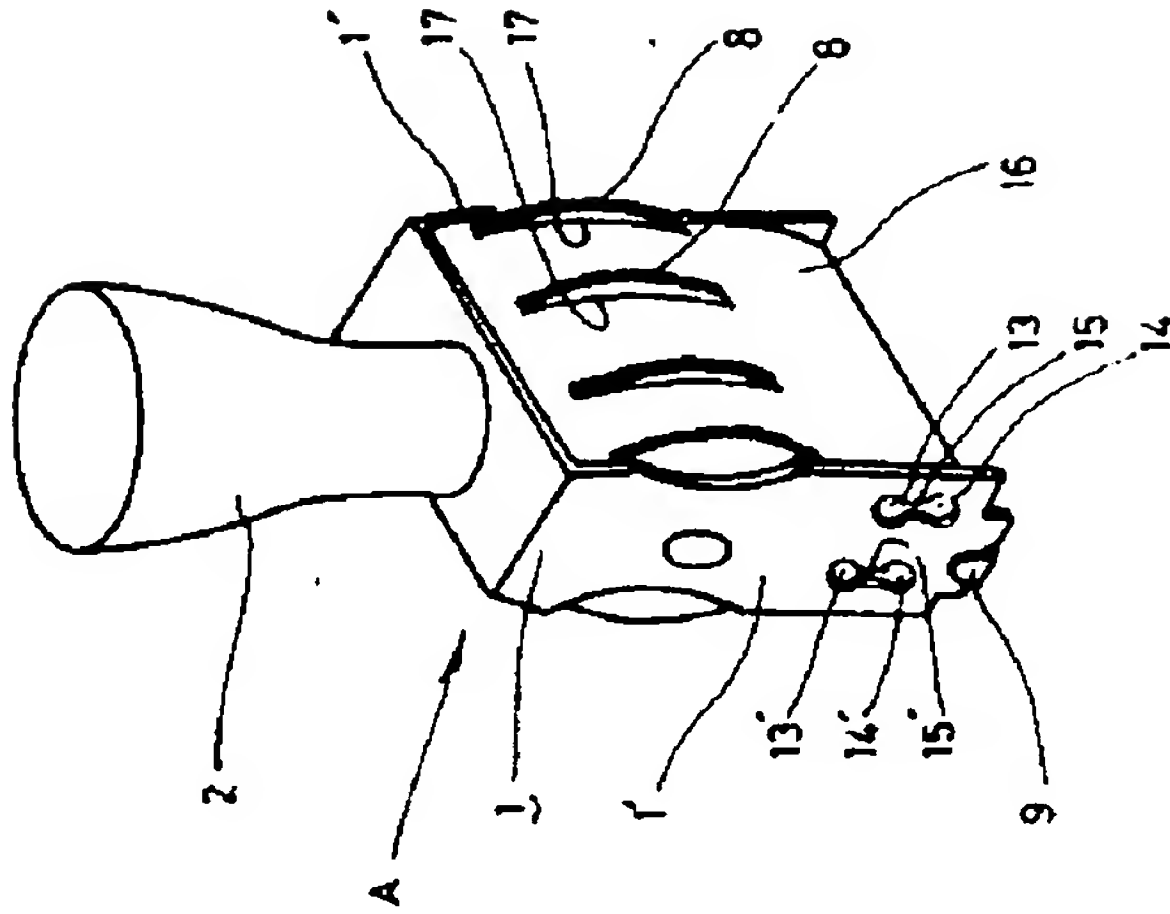
図中、A …… 回転印本体、(1) …… 支持棒、(5)、
(6) …… 支持棒、(6) a …… 印帯当接部、(6) b、(6) c
…… 係止片、(11) …… 印帯、(12) …… 印字、B …… 重
脱印部、(18) …… 窓孔、(19) …… 印字

実用新案登録出願人 舟 橋 高 次
代 理 人 宇 佐 見 忠 男

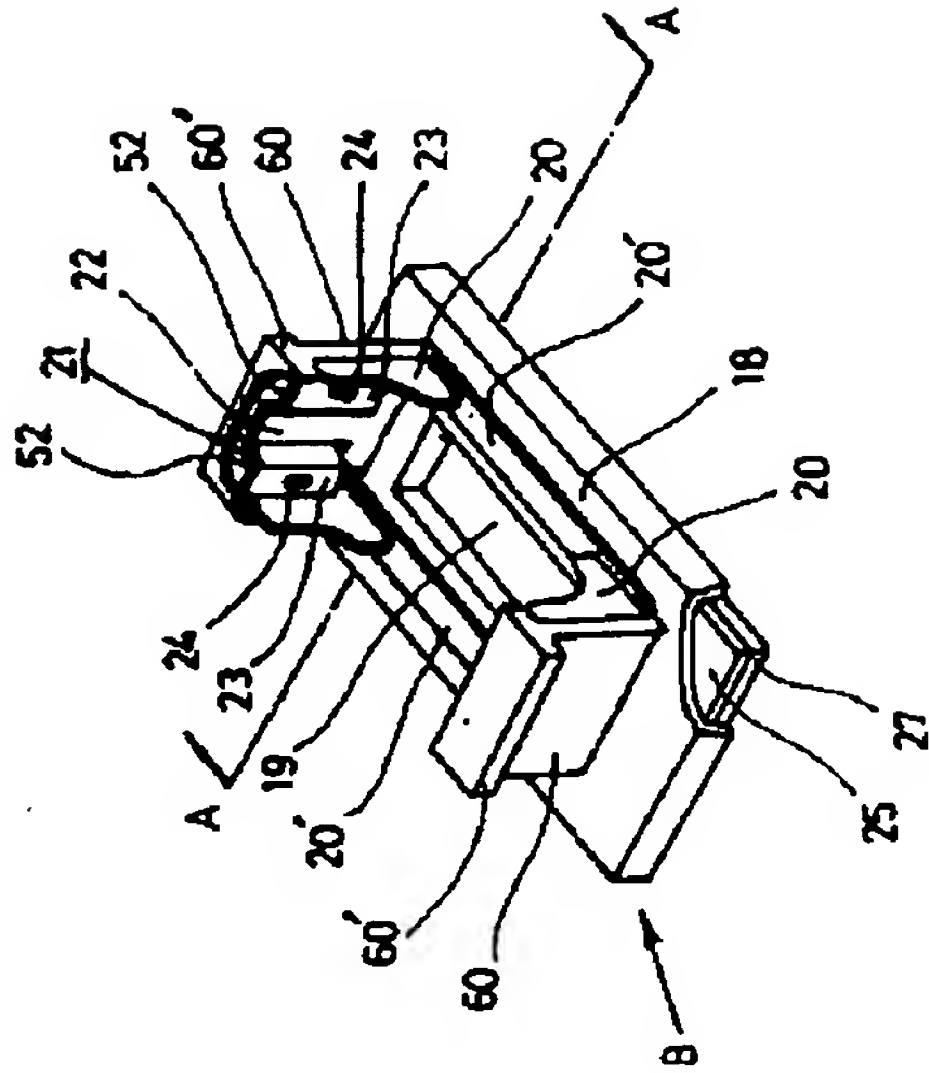
第 1 図



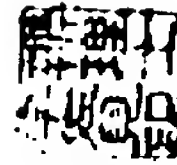
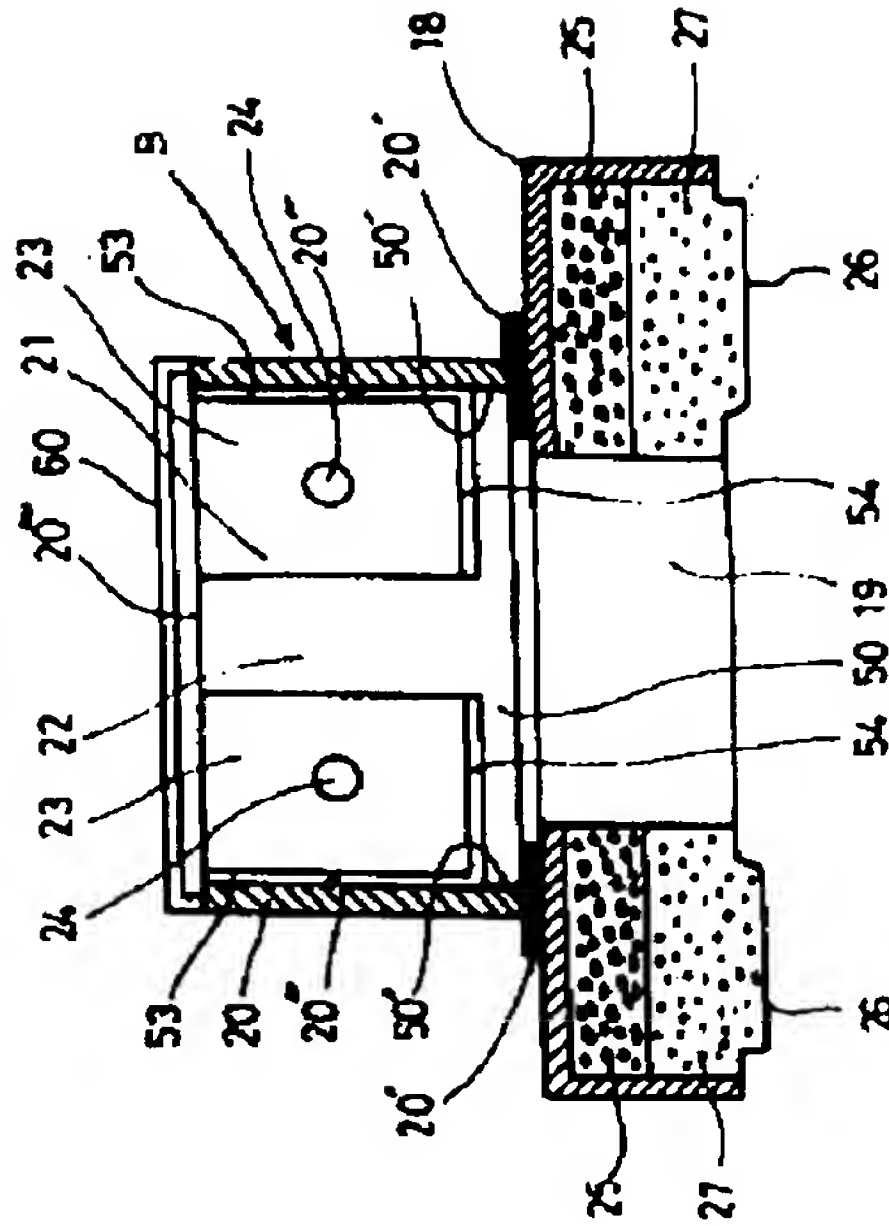
第 2 図



第 3 図

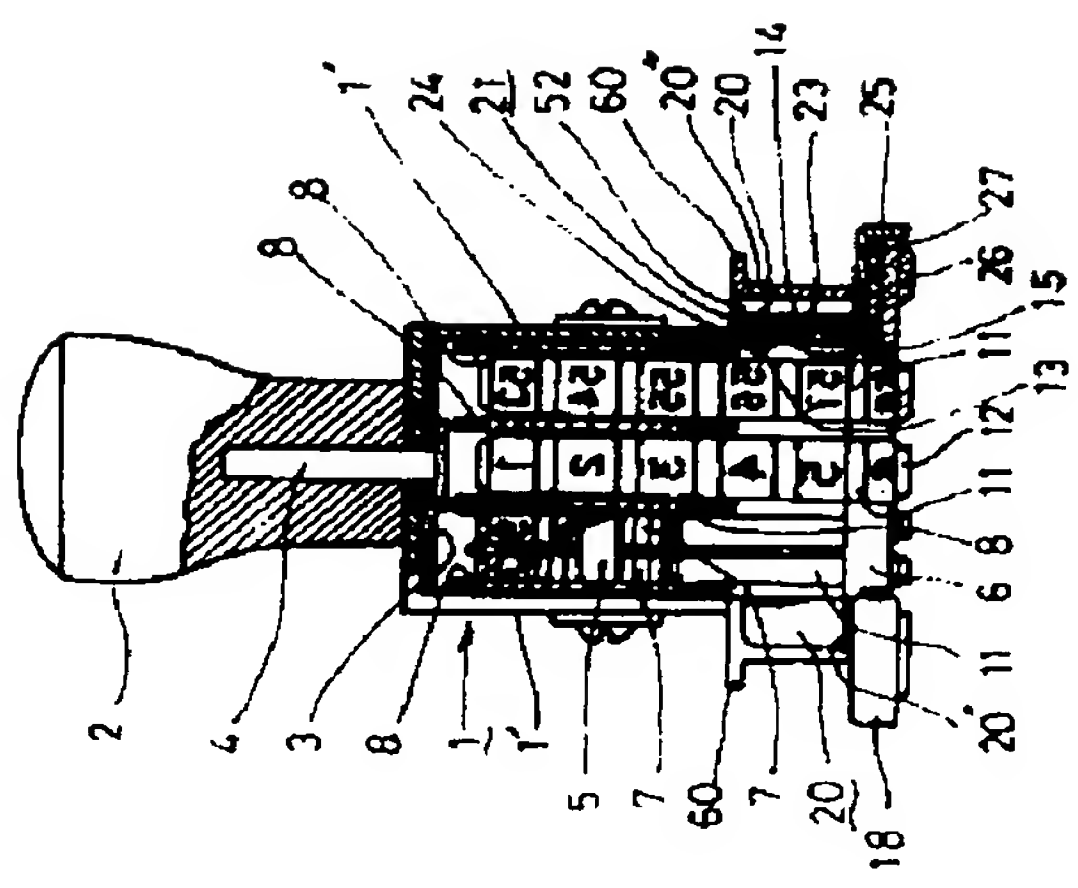


第 4 図

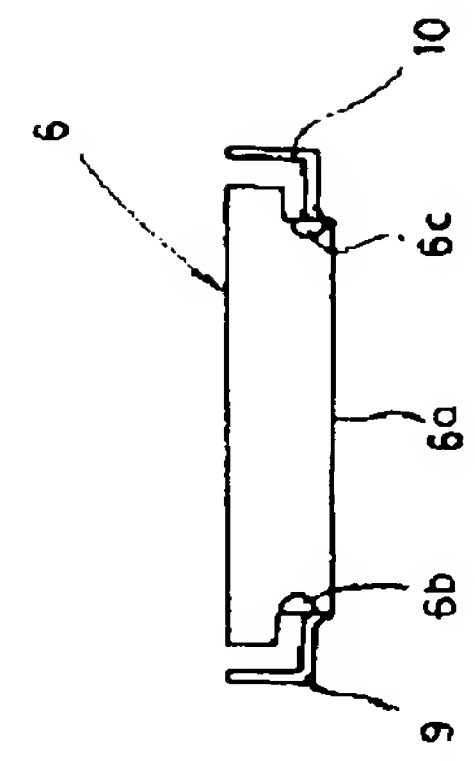


代理人 宇佐見忠男

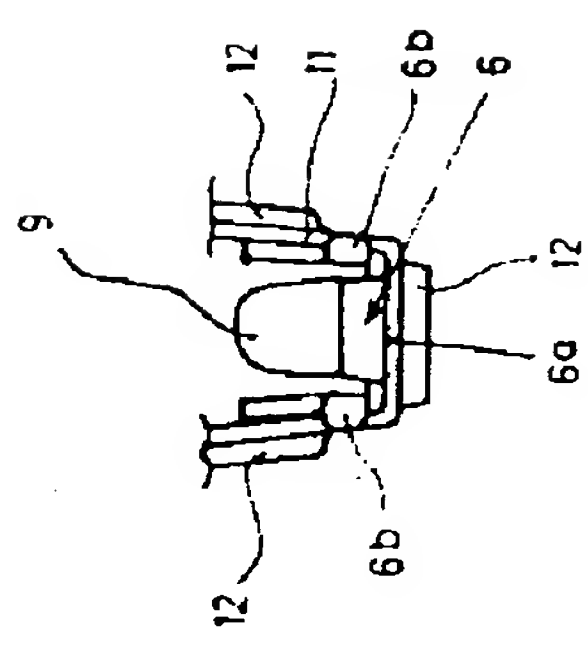
第5図



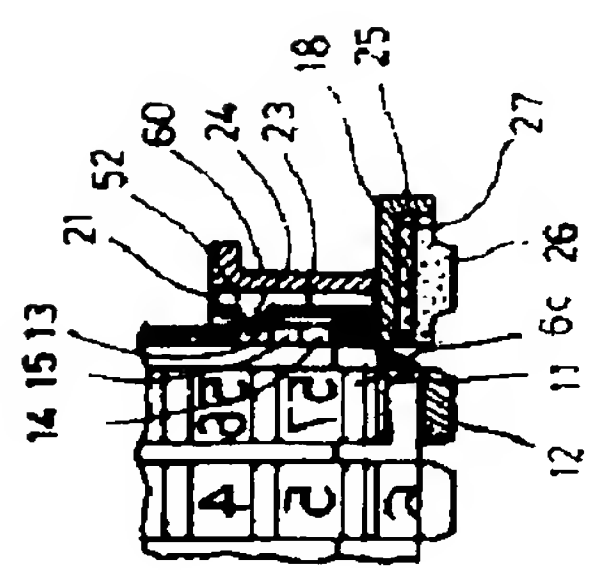
第7図



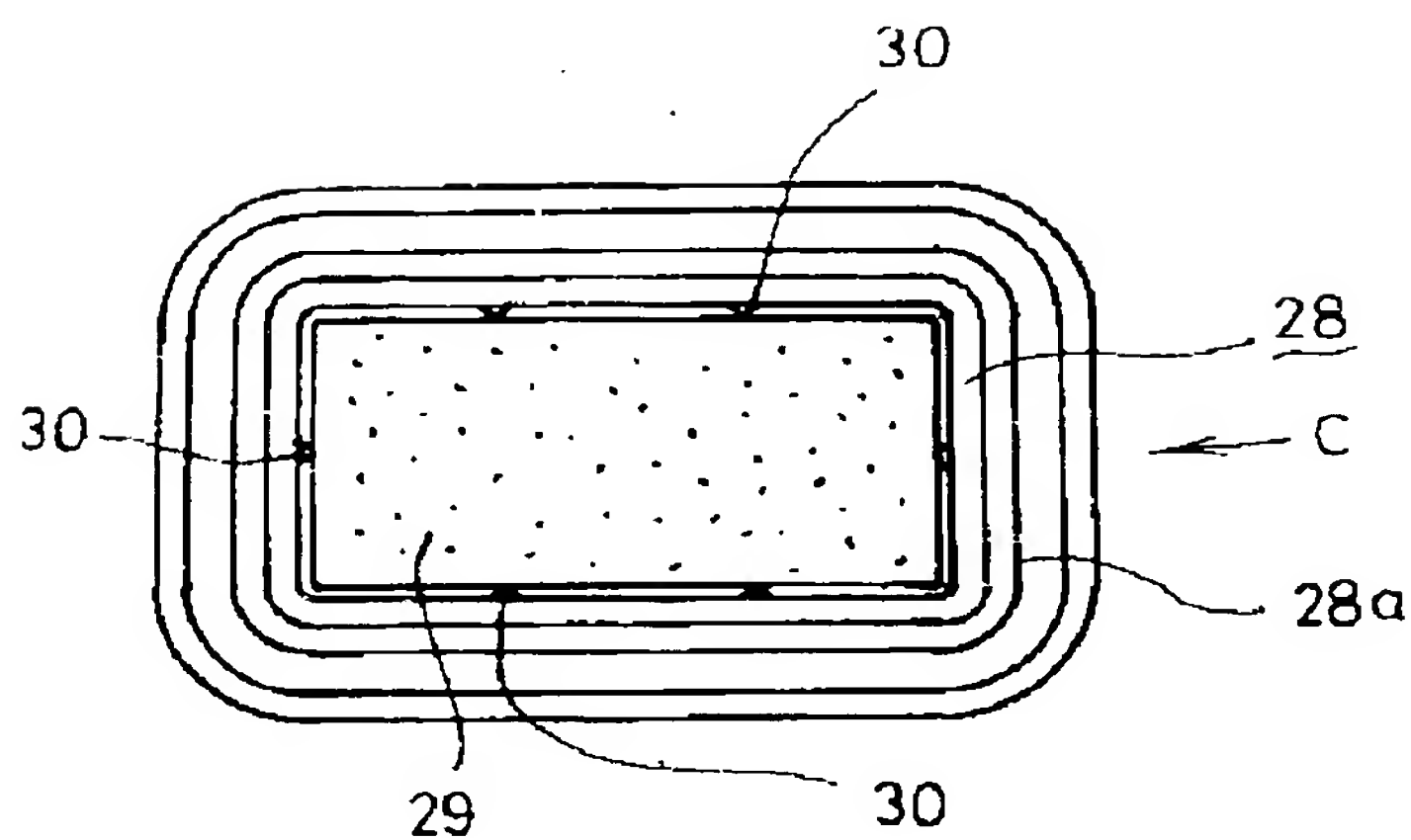
第8図



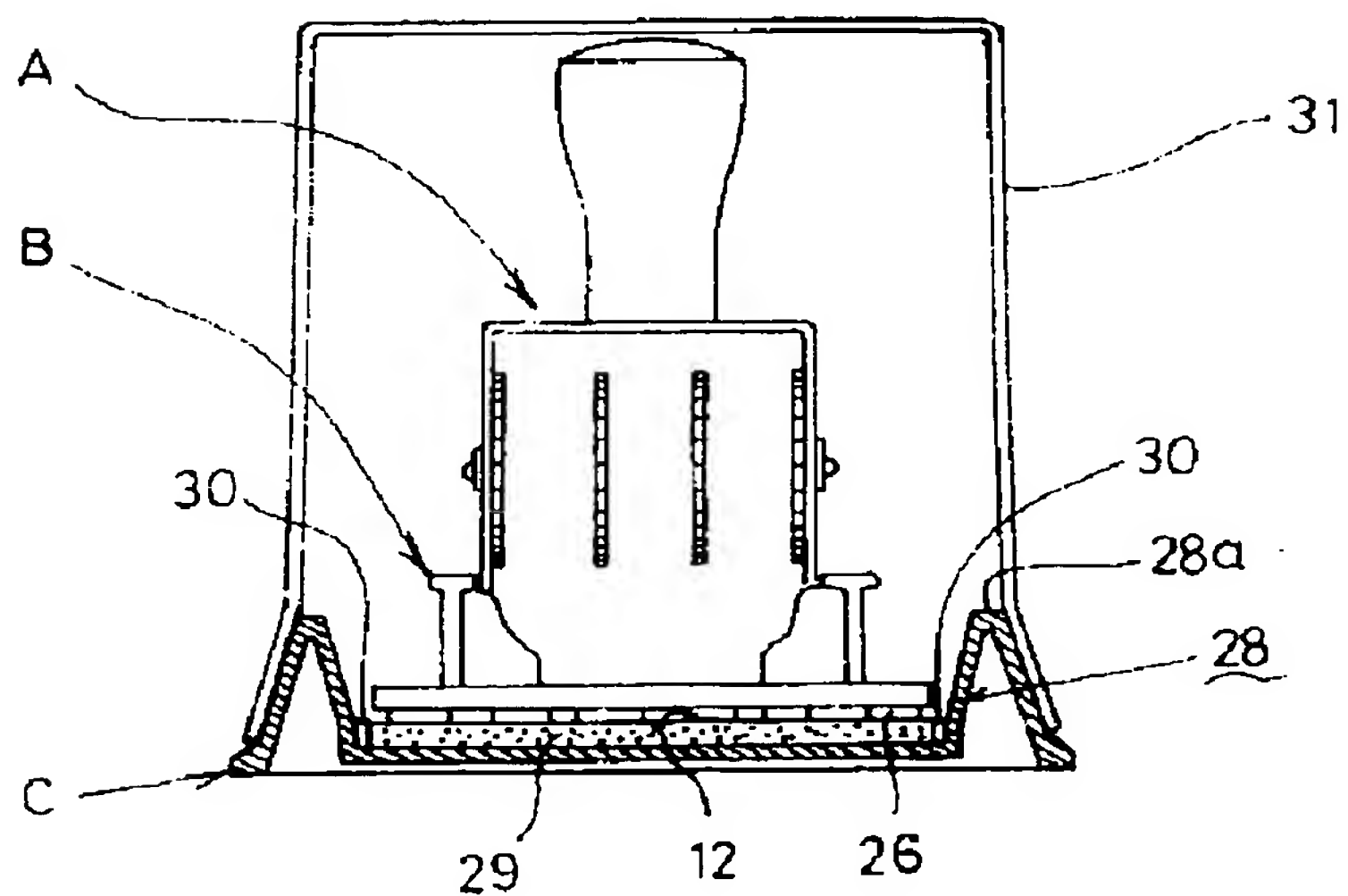
第6図



第 9 図



第 10 図



代理人 宇佐見忠男

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.